

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／ただいまより、新型コロナウイルス感染症について、知事記者会見を始めます。
知事、よろしくお願いします。

知事／休みなのに会見をお願いして申し訳ありません。

（アクリル板が）ずいぶん透明なので、何もないかと思いました。
この（資料の）パネルで説明します。

2 ページ

本日発表する感染判明者は 21 名で、過去最高です。

今日の趣旨は、7月に入ってからからの感染の振り返りです。

3 ページ

奈良県では、感染経路の推定に力を入れています。

感染経路がわかれば感染予防ができるという思想です。

奈良県では、今までほぼ全ての感染経路が推定されてきています。

奈良県のクラスターの定義は、同一集団内、同一発生源、5名以上です。

奈良県で定義したクラスターのこれまでの発生は、1件だけです。

類似する事例の発生がその他 2 件あり、合計 3 件です。

この 3 件はすべて終息済みで、現在クラスターが進行している事例はありません。

4 ページ

佐川急便奈良営業所のクラスターは、発生源は 1 名、感染者 10 名です。

7月 28 日に終息しています。

2 つめは近畿大学奈良病院。

発生源が 3 名おられて、発生源 1 名というわけではない。

クラスター感染者は合計 6 名だが、奈良県のクラスター定義に入らないので、クラスター類似案件として挙げています。

7月 21 日に終息しました。

県内高等学校は、発生源が1名です。

感染者が4名で、クラスター定義には入りません。

7月19日に終息しています。

ふつう、クラスターが発生すると慌てるが、原因と経緯がわかれば対処するので、クラスターが発生した場所では、(再び)発生しないというのが普通です。

徹底さえすれば発生しない。

連続して発生する病院も他市ではあったが、用心さえすれば、その場所でのクラスターは発生しないと期待しています。

5 ページ

全感染者が164名。

その感染経路の分析をしています。

1次感染から4次感染まで分けています。

1次感染は、奈良県在住で、県外で感染した方と、県外からの来訪者からうつされた方の2種類。

最近、県外から来られた人にうつされた方が3名おられる。

1次感染者79名のうち3名はそういう方です。

2次感染者は奈良県在住で、1次感染者からうつされた方。

3次感染者は奈良県在住の2次感染者からうつされた方。

発生源から順にたどって感染経路の分析をしている。

現在4次感染者までが、経路として、判明しています。

その他調査中の方が26名おられます。

その大雑把な推定はできているので、これから説明します。

6 ページ

1次感染者の類型です。

県外でうつされた方、県外から来た人にうつされた方です。

76名の方が県外に行つてうつされた方で、ほとんど大阪です。

県外から来られた方にうつされた方が3名。

県外に行つてうつされた方の中で、大阪に行つてうつされた方が76名中71名。

大阪以外は5名です。

うつされた場所・形態は、飲食56名、勤務10名です。

7 ページ

2次から4次感染者の類型です。

奈良県の人から奈良県の人に奈良県でうつしたケースです。

これが奈良県の一番関心があるところです。

2次感染以下をなくするのが主な仕事だと認識をしています。

A から F まで 6 種類の類型があります。

そのうちで 1 番多いのが、友人宅の訪問・感染者の友人との飲食等です。

2 つめに多いのは、家族の中での感染。

3 つめは職場。

友人との交流、職場、家庭が 3 大類型です。

6 月までの第 1 波では、2 次感染以下は全て家庭内感染でした。

(現在は) 家庭内感染から類型が分散して、6 種類になっている。

8 ページ

調査中の案件は 26 名。

勤務先・通学先が県外の方が 9 名。

県外の勤務先、通学先でうつされたのではないかと推定はできるが、固めるところまでいっていないので、調査中で計上しています。

勤務先・通学先が、県内にあって 2 次感染の方が 13 名。

勤務先か通学先でうつされたと思われるが、どの場所でうつされたか、複数あって特定できない。

仕事や通学ではないが、デイサービスに行ったというように、行動パターンから特定ができない方が 4 名。

調査中の案件でも、(感染は) 勤務先、通学先、仕事でのことである。

感染経路の調査から判明したが、奈良は夜の遊興施設での感染は皆無と言っていいかと思いません。

奈良には、遊んで感染する夜の街がないのかもしれませんが。

奈良で友人と会食をしてうつされた方はいるようだが、

それは、その場所が悪かったのではなく、会食された相手が感染者であったと判断される。

したがって、休業要請をする場所も見つからないのが現実です。

9 ページ

資料は感染経路の類型から判断し、(内容を) 絞って注意しようというスタイルです。

一般的な注意事項よりも絞って注意できるようにした資料です。

飲食の種類は幅広いが、第 1 次感染では、大阪での飲食が 56 名おられます。

そのようなケースへの対応として、多人数、長時間は避けること。

仲間の人数だけでなく、ホールが多人数なら、感染者がいる確率が高くなるからです。

最初は、大阪のライブハウスが特定されました。

それ以外、大阪では特定されていません。

多人数が集まる場所に行ったケースが奈良ではわかっているので、そのような場所は避けた方がよい。

最初のケースでは、一晩中そこにいたことが判明しているので、長時間は避けたほうがよいでしょう。

会食に行った仲間が全部感染者ということは少ない。
感染者がその中に1人いて、隣に座ってうつされた方もおられます。
また、感染者と対面で会食をしてうつされた方もおられます。
大阪で会食した場合も、多人数で感染しやすい場所だったという例もありますが、(会食の相手が)友人だったからうつされたというケースも見受けられます。
それはその場ではわからないので、お互い様です。
しかし、なるべく離れて、向い合わせにならないように一緒に外を見て座るアベックシートと言われるような座り方だと、感染リスクが下がるのではないかと思います。
このようなことは資料には書いていませんが、向い合わせにならないこともご注意申し上げたい。
大阪での買い物の感染は、比較的少ないです。
それでも、5名推定される方がおられます。
奈良での買い物の感染例はありませんが、奈良での買い物は安心だよとまではなかなか言えない。
大阪での買い物は5名おられるので、計画的に素早く済ませたほうがよいと申し上げたい。
それから、大阪勤務の方で、勤務先で感染したと思われる方が10名おられる。
奈良は大阪勤務の方が多いです。
生駒・王寺・香芝など、大阪勤務の方の感染者が多い。
大阪で夜に勤務されている方も、最初の感染で例が挙がっていました。
しかし、昼の感染もあります。
勤務先一般での注意事項としては、勤務先での感染リスクを下げるようにしていただきたい。
同じ職場の人が全員感染するケースはまれです。
感染者と近くで話をしたり、仕事をして感染すると推定されます。
そのようなリスクがあるので、勤務者、雇用者等で相談して、換気の徹底や人との間隔の気遣いをして、変えられるのがよいと思われます。
2次感染以降は、3次は2次から、4次は3次からという違いだけで、類型のパターンは同じです。
友人との飲食は、2次感染以下で20名おられます。
これは大阪での飲食でも同じだが、飲食の場が問題だったというよりも、友人の中に感染者がおられたケースがほとんど全てです。
奈良での2次感染も(資料には、大阪由来と)同じように、「多人数、長時間は避ける！」と記してあります。
しかし、奈良で多人数が集まるようなホールはないので、これは不適切な注意事項だったと思います。
奈良で多人数が集まる場所で感染したケースは、ないと聞いています。
むしろ、友人との会食で感染者と長時間話したとか、密接して向かい合って話したことが確認されています。
向い合わないよう外を見ながら食事すると、リスクを相当下げられるので、おすすめします。

友人が感染しているとはつゆ知らないまま、長時間、いつものとお話し込んでしまったというケースが増えています。

また、車に同乗してうつされたのではと思われるケースが、5名おられます。

友人と同乗する場合でも、マスクをして、換気をしてもらいたい。

夏の暑いときには、車を走らせながらの換気は難しいが、時々入れ替えたり、止まったりすることをおすすめします。

同乗すると、密閉空間で長時間ということが想定されますので、できるだけ避けていただきたい。

職場での感染は、10名おられます。

これには、佐川のクラスターなども含まれます。

換気の徹底、対面接触の注意をするように。

リモートワークと言われるが、直ちにそれができる職場ばかりではありませんので、職場での近接接触を避けるよう配慮されたいと思います。

佐川急便もその方法でクラスターを終息に向かわせたので、見習ったらよいと思います。

家庭での感染は、第1波は21名で、2次感染以下はすべて家庭での感染でした。

今回も17名おられます。

(資料の)「手洗い！着替え！シャワー！」とは、帰宅したらすぐに手洗い、着替え、シャワーを励行すれば、家庭内での感染が収まると思います

10 ページ

次は、感染者の早期発見・即時入院隔離というテーマです。

それを徹底するようにしています。

他市との比較で、病院が足りなくなるのではないかとされる方もあります。

しかし、感染者を早期発見して即時入院隔離を徹底する方針をとっています。

現在、過去最高の感染者が判明しましたが、入院病床は467床を確保しています。

72名が入院していて、15%が埋まっています。

宿泊療養施設は108室確保していて、3名入室しています。

占有率は3%で、まだ余裕がある状況です。

11 ページ

その次に大事なことは、重症化予防です。

重症化は、死亡や後遺症に繋がる可能性が高くなります。

重症化を防ぐと死亡しない。

重症化なしに、飛び越えて死亡ということはないだろうと思われれます。

重症化患者数は、最初の6月までのケースでは6名おられました。

7月以降は3名です。

全感染者の中で占める重症化率を、注視するメルクマールとして追求しています。

第1波では7%、第2波では2%です。

死亡者数をなくすことが大きな課題です。

第1波では、2名の高齢者が亡くなりました。

併合病を持っておられる方は、要注意です。

7月以降の感染状況でも、高齢者や基礎疾患のある方に注目して、病院では重症化予防を心掛けることを大きな課題としています。

現在、重症化がこのレベルで抑えられていることを報告します。

12 ページ

入院、退院の状況です。

7月以降、164名が感染されました。

そして、すでに89名が退院されています。

これらは入院病床の空き具合とも関係するので、この数字（退院者数）も重視しています。

退院者は89名で、現入院者数は72名です。

現入所者・・・刑務所に入ったような表現で、ちょっとびっくりしました。

刑務所じゃなくホテルの療養宿泊入所の意味です。

3名の方が、直接、療養入所に向かわれました。

13 ページ

先ほどの繰り返しになりますが、コロナ専用病床として467床確保をしています。

現在の占有率は15%です。

第1波と比較すると、過去では64床しかなかった時期があります。

そのときは50名まで患者が出て、78%まで占有率が上がりました。

病床数をその後、急激に増やす手当をしました。

その結果、現在までで467床になっています。

占有者数が72名になったが、占有率は15%です。

14 ページ

それから、重症患者数が死亡に繋がることを重視しています。

重症患者に対応した酸素吸入や、ECMO（エクモ）を装備した病床は、現在、25床を確保しています。

現在、1名が入院されているので、占有率は4%です。

十分余裕はあると言っているのかわかりませんが、空きがあり、まだ大丈夫です。

重症患者対応も、このような状況です。

15 ページ

最後にPCR検査です。

1日あたりの判定能力は、717件になっています。

(検査件数が) 増えてきているので、最大検査数は 486 件です。

職員／586 件。

知事／586 と言いませんでしたか。

すみません。

ちょっと頭がぼけておりますので、申し訳ございません。

判定能力はいいのですが、検体採取能力は 160 件しかありません。

第 1 波のときは、検体採取能力の方に余裕があり、判定能力の方は危なかった。

判定能力を上げるために、資料のように、民間検査機関などをお願いして増やした経緯があります。

今、検体採取能力が 160 件。

これは不足気味だと判断しています。

検査採取能力を拡充するよう指示しました。

検査能力を拡充すべきと考えています。

振り返りを中心に話したので、このような報告になりました。

以上、最近までの振り返りを、報告します。

感染経路がわかってきているので、感染経路に応じた注意をすることが一番大事です。

また、入院病床のレベルに余裕があるので、その面は心配をしなくても大丈夫です。

PCR 検査の採取面は、能力が不足しているので、それを上げるよう指示しました。

それが大きなところでは。

休みのときに集まってこのような報告を聞いていただき、ありがとうございました。

司会／ありがとうございました。

それでは、これから質問を受けさせていただきます。

記者／奈良テレビ放送のマツタニです。

今日は、ありがとうございます。

一つ大事な確認をしたい。

資料の 13 ページ、14 ページ目。

知事／何ページ目？

記者／13 と 14 ページです。

どちらも、十分に余裕があるという表現をされました。

知事も、表現に迷うことがあると言われました。

県民が一番怖がっているのは、医療崩壊しないのかどうか。

これは、奈良県医師会も同じ認識でいいんですか。

余裕はあるという（ことでいいですか）。

知事／奈良県知事医師会がどう言おうと・・・医師会と、おっしやった？

記者／そうですね。

知事／医師会が権威をもって見られるかどうかわかりませんが、これを見ていただいて、空きがあるということは、私は確かだと思えます。

医療崩壊の兆しはない、と言いかえてもいいと思えます。

記者／確かに数字だけを見ると、467床なので、たくさんあると受け止められます。

最前線で、医者や看護師の方など、人の数もあっての（足りてこそ）受け入れの余裕があるという表現になるかと思えます。

余裕があると私達が報道しても、いいのかどうか。

知事／その通りだと思います。

余裕がある。

（医師や看護師の）人数が足りないのではないかと、病床だけしか上げてないのではないかと
いう指摘のように思います。

病床の裏には、人数がないといけない。

医者がいないといけない。

空（から）病床を用意しているわけではないと認識をしています。

記者／もちろんその・・・

知事／お疑いですか？

病床に医者がいないんじゃないかと疑いですか。

記者／まさか医者がいないはずではないと思うんですけども。

知事／私は、まさかそんなことはないと思うんですけども。

記者／それは、そうなんですけれども。

知事／教えてくださいよ。

医者はいないの？

医者はいないなら、危ないよと僕が言わないといけない。

医師会が言わなくても、医師がいないというのは私達が言わないといけないことです。

記者／要は、私がこういうことを聞いたのは・・

知事／何ということをおっしゃるのかという感じはしました。
嘘じゃないかとおっしゃったような感じがしました。
そんなことないよと、とにかく言わないといけないと思った。
はい、どうぞ。

職員／医者も看護師もいる状況で、最大にコロナの患者を受け入れられる病床数を計上させて
いただいています。

知事／だから、明日 467 床来られたら受けられます、ということを、今、言っているんです。

記者／私が聞いたのも、先日、これは東京の話ですが・・

知事／奈良と東京と大分違うじゃないですか。
まぜこぜにしない方がいいですよ。
東京は大変だと思いますが。
奈良はこのような状況ですと、一生懸命、事実に基づいて話している。
それが、事実を疑わしいとおっしゃるのだったら、事実は疑わしくありませんと、まず言った。
余裕はある。
それはよろしいですね。

記者／わかりました。

知事／わかりました。
結構でした。

記者／余裕はあるということですね。

知事／その通りです。
医療政策部長が申し上げます。
奈良県では余裕があります、ということです。

記者／はい、わかりました。
ありがとうございます。

記者／奈良新聞のクラオカです。

数で一喜一憂するべきではないと思います。

しかし、現実には、奈良県も毎日のように感染者が出て、増加傾向にあります。

今日現在、1日の感染判明者が21人。

そして、これも更新している状況です。

考えたくはないが、今後もますます増えることも予想されます。

今、20人台に乗った。

今の知事の受け止めや、今後の警戒についてのご意見をお伺いしたい。

知事／先ほど東京や大阪はどうですかと言われたが、東京・大阪と奈良は違うということを一先懸命説明しているのです。

大都市の発生と、そこから影響を受ける奈良県のような地方都市は、その感染の仕方が違うということを一先懸命分析して言っています。

それが今日の本旨です。

東京・大阪をどう思うというのは、違います。

(奈良は)大阪ゆかりの感染は多いが、先ほど言った中で、東京から来て奈良で感染させた人は1名だけです。

大阪から来て感染をさせた人は2名だけです。

みんな、大阪に行って感染しています。

東京に行って感染する人もこれから出るかもしれないが、東京でいくら増えても奈良はあまり影響がない。

そのことを、感染経路から申し上げている。

これが本日の一番の趣旨なので、それをよく理解してほしいのが基本にあります。

一方、大阪や東京の感染が増えていることをどう思うかというのは別の話。

これについては、あまり分析していません。

奈良にどう影響があるのかという点では、責任や分析の必要性はあります。

今のところ、大阪ゆかりが何人、東京ゆかりはほとんどないというのが分析結果であり、そのことを報告したい。

記者／現在の感染者数の増加傾向について、知事はどう受けとめておられますか。

知事／質問は、奈良も東京・大阪のように高い山を作るかということだと思います。

第1波もそうでしたが、ピークでも富士山のような高い山はなかった。

ダラダラとした山で、収束する傾向だった。

これからの傾向はわからないが、高い山となっても、波ができる可能性がある。

これは、様子を見ないといけない。

まだ急坂になるのではないかと、第1波の時に言われた。

しかし、第1波では、急坂はありませんでした。

累積するとのぼり坂に見えるが、その日ごとの感染はダラダラと波があるという状況です。

東京・大阪は、毎日の感染者数が高い山、急坂になっているが、奈良にそういうことが起こる心配はあるのかと聞かれたら、東京・大阪のような大都市とはちょっと違うと思うとしか、まだ言えない。

心配していないわけではないが、正直に言うなら、東京・大阪のようにはならない気がする。

記者／読売新聞の小林です。

先ほど知事が、県内では、夜の街の感染は皆無だ、休業要請する場所は見つからないとおっしゃいました。

確認ですが、奈良県は、休業要請や営業の短縮の検討はどうですか。

知事／さっき言いました。

ここは大人数での感染発生の場所だから用心してくださいというには、実績がないとできない。

まだ、実績が見つからないと言いました。

これから、奈良でそういうことが起こらないという保証はないが、今のところ夜の街感染が見当たらないので、休業要請をする場所は見当たらないと言えます。

だから、休業要請はしないということになります。

記者／京都・大阪では、例えば飲食で5人以上集まらないでとか、2時間以内にしてと、要請されています。

そういったことはどうですか。

知事／大阪の飲食などの感染場所に対して、隣県としてどう思うかという質問だと思います。

最初は、夜の大阪ライブハウス感染と発表され、感染場所も特定して発表されました。

その後、夜の街などと曖昧に発表されているので、どこが危ない場所だったのかがわからない。

知事会では、感染した場所を公表すべきかどうかという議論が始まっています。

私は、公表してほしいと思う立場です。

こういう場所は危なかったが、その後危なくなくなったなどと。

知事会のテレビ討論があったとき、山梨県知事から、感染しない工夫がされている飲食店はOKマークをつけて公表しているという発言がありました。

「ここは、より安全です」というのは、大都市ではやりにくいのかなと思います。

東京もそうです。

感染しないように配慮されている地方の県がある。

奈良でもやればどうかという議論は、あると思います。

そういうことをしては困るという意見がある一方、自分のところは工夫しているのに同業だからみんな危ないと言われるのは困るという業者もいると聞いています。

「知事さんの話を聞いていると、公表してもらったらいいい」という業者さんもいるよという話があると、伝わってきている。

そのようなことを公表するかどうかは、例えば大阪府知事の責任というか判断ということになるので、私がこうしてほしいと言う立場ではないと思います。

しかし奈良からすれば、ここは危ない、ここはいいというように、大都市に行ってもここは大丈夫だという（マークのある）ところに行っていれば、またそういう（マークでの）実績があれば、行きやすい。

私は、大阪に夜でも行くのは自粛してくださいとは言っていないです。

自粛しなくてもよいが、危ないところは避ける方がよいですよと言っています。

このような場所は危ないということは、累計で、こちらの調べて言うことができます。

しかし、大阪のどこが危ないかまではわからないので、言えません。

大阪の危ないところまで言えれば、大阪の飲食等からの感染事例は減っていくかもと推察します。

このようなことは、コロナと共生する観点からは必要かと思います。

大都市の知事ではないので、そんな気楽なことを言うなどと言われてしまうかもしれません。

大都市の知事はいろいろな意見の中で判断するので、大変だと思います。

希望というか、そうしてもらえれば、隣県から訪問する県民にとっても導きになるのではと思いますが、そこまでした方がいいとまでは言えないと思っています。

記者／関連で。

資料9 ページに、「大阪での飲食 56人」と、具体的に人数を調査されています。

例えば、「注意した方がいい」というレベルからもう一步踏み込んで、「行かないで」というレベルには、なっていないのですか。

知事／そういうレベルの注意をしたくないと、先ほど言いました。

大阪で飲食しないでくださいという、広い注意をしたくない。

狭い注意をしたい。

飲食というのは、幅が広い。

先ほど言ったように、夜の多人数のパーティーも含まれている。

そういうところは危ない。

「飲食」をもう少し分類できたらよいが、大阪での飲食なので、こちらでは分類できないのが悩みです。

大阪での飲食に行かないでというのは、広すぎる。

感染しない工夫をしているところでは感染しないと思うので、大阪での飲食に行かないようにというのは、むしろ間違った注意になるかなと思います。

司会／他に質問はありませんか。

では、知事の記者会見を終わります。

ありがとうございました。